

才能教育の在り方に関する論点の 共通認識のための基盤（私見）

関西大学名誉教授
松村 暢隆

1. 才能教育が対象とする才能

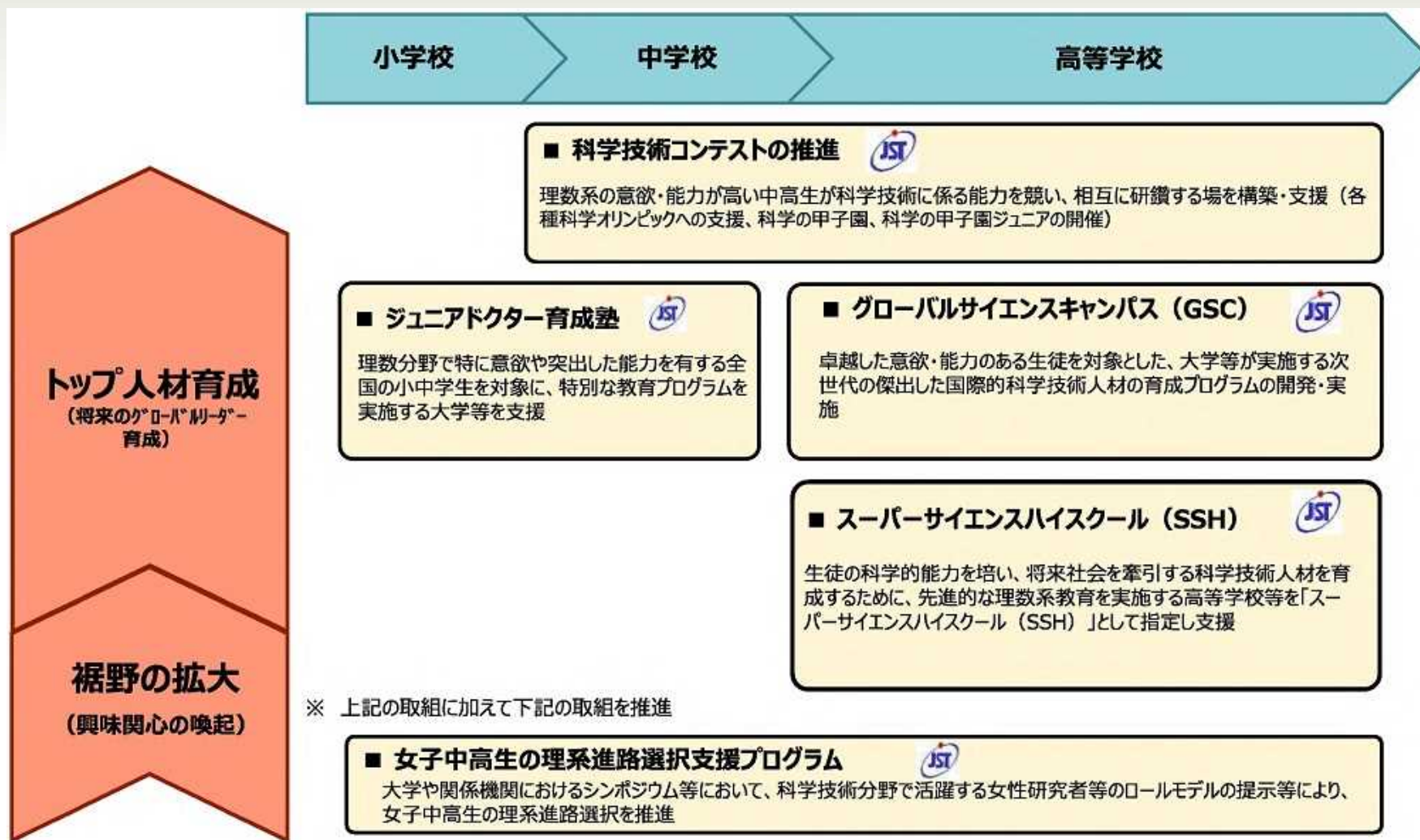
● 特定分野に特異な才能とは？

- 従来、論者の中で「才能」の概念・定義の認識が曖昧、混乱 ×「ギフテッド」=異能(天才)、2E
- 才能は本来、領域固有で多様
 - ◆ アメリカESEA(初等中等教育法)の定義 (1978)
知能, 創造性, 芸術, リーダ-シップ°, 特定の学問
 - ◆ NAGC(全米才能教育学会)の定義 (2010)
領域固有のシンボル体系をもつ (MI: 多重知能)
- 才能児: 通常教育課程を超えた指導・支援が必要・適切 < 公正な才能の識別 (多様な評価方法)
 - 諸分野を合わせると集団全体の1割以上にも

▼ 「特定分野に特異な才能のある児童生徒」

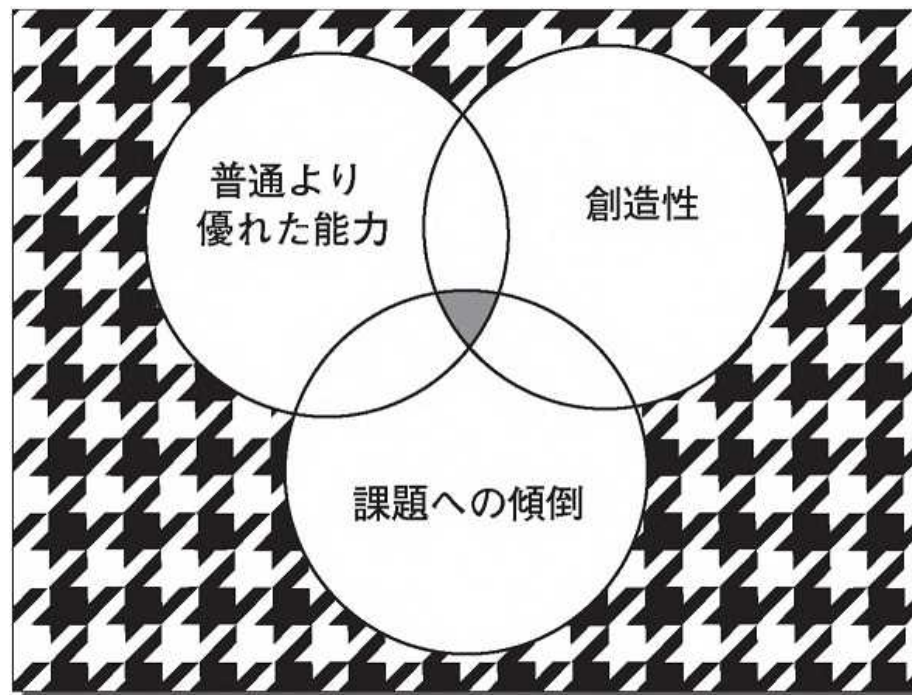
- 「分野に特有な」意味ではなく「**突出した能力・異能**」と暗黙に認識される傾向
 - ◆ 総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）
 - 「特定分野で異能がある」「異能を育てる」（2021.04.08）
 - ◆ 第6期科学技術・イノベーション基本計画（2021.03）
 - 突出した意欲・能力、「出る杭」を伸ばす
 - ◆ SSH今後の方向性有識者会議第二次報告書（2021.07.05）
 - 将来、国際的に活躍し得る科学技術人材の育成
- 一方で「トップ人材育成」と「裾野の拡大」は連携する取組として構想（CSTI, 2021.6.24）
 - SSH：**科学技術人材育成システム**改革を先導するような卓越した研究開発（基本計画）
 - 課題研究(問題発見・解決的学習)の充実（SSH報告書）

初等中等教育段階における科学技術人材育成支援



→**才能児**：突出した異能だけでなく、**領域固有の**
(特定分野の) 才能をもつと捉え直す

◆**才能の三輪概念**



(Renzulli, 1995;
松村, 2021)

- 諸外国の理論・実践を参考に、才能教育の概念・実態を共通認識する必要

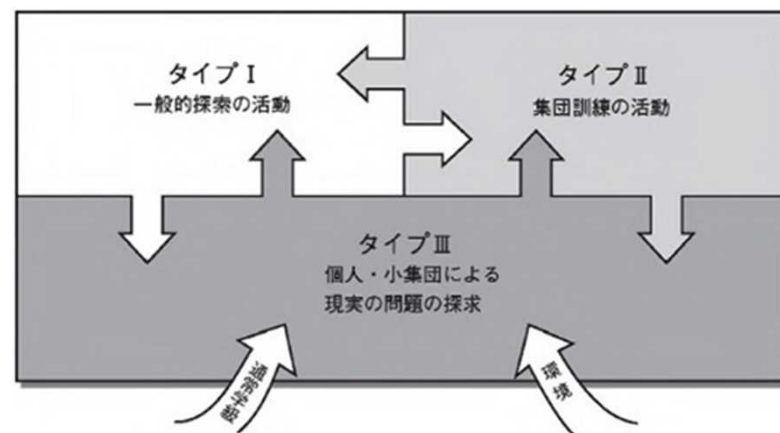
2. 多領域の多様なレベルの才能を伸ばす

● STEMを超えたSTEAM教育の充実

- STEAMのA (中教審答申, 2021.01.26)
 - 芸術・文化→諸分野含め広く
 - 文理の枠を超えた教科等横断的/探究的な学習を充実
 - 経済産業省「未来の教室」：学びのSTEAM化(学際探究)
- 理数教育の充実が焦点
 - ◆ 第6期科学技術・イノベーション基本計画
 - STEAM教育の推進による探究力の育成強化
 - 目指す指標：算数・数学・理科が楽しいと思う割合を(国際的に遜色のない水準にまで) 増やす
- 多様な領域のバランスを
 - … 科学技術人材以外のトップ人材育成プログラム(学校内外)の充実が最重点目標ではない

● 全ての児童生徒対象の才能教育をベースに

- ①一定基準で才能を識別して選抜するプログラムと、
- ②才能を基準に選抜はしないプログラムを明確に区別
- ①一部の児童生徒対象の狭義の才能教育は、
- ②通常学級を基盤に広義の才能教育と連携
- 拡充三つ組モデル→学校内外のプログラムと連携
 - 通常学級へのフィードバックが有意義(タイプⅢ→Ⅰ)
- 通常学級から校外プログラムまで
適合する場で、全ての児童
生徒の才能特性を活かす、
公正な個別最適な学び
→ 特異な才能も救える



(Renzulli, 1995; 松村, 2021)

● 才能教育の方法の概念整理

◆ 狭義の才能教育

(才能を識別して選抜した一部の生徒対象)

- 早修：上位学年の単位修得（飛び級・飛び入学等）
- 拡充： ～ なし（才能クラス等）

◆ 広義の才能教育

(才能は識別しないで、全ての生徒対象)

* 人数を制限して抽選や先着順でも

- 早修：上位学年の単位修得（AP等）
- 拡充： ～ なし（プロジェクト学習等）

○ 発達障害の有無に関わらず（2E児も）公正に
才能プログラムに参加できることが理念

* 才能の識別と合理的配慮等、個別ニーズへの対応

3. 才能児には学習・社会情緒的支援が必要

● 困っている才能児のニーズに対応

- 才能教育の理念：通常の教育課程では不適応・不利な児童生徒の才能に公正に対応する観点に立つ
- 喫緊の出発点：才能児のニーズからの議論
 - 特別な支援が必要な才能児を救う
 - ◆ 社会的多様性：学習に不利な家庭背景（貧困等）
 - 特定領域（理数等）の特異な才能に特化した少数者選抜プログラムは、不公正・弊害の可能性も（例：韓国の科学高校・飛び入学と受験競争・格差）
 - ◆ 発達多様性
 - 2E等、個性的な発達の道筋や社会情緒的問題

● 才能児の学習・社会情緒的問題の認識と支援を

◆ 2E（二重の特別支援を要する）

- 才能行動/発達障害が見落とされる（互いを隠す）

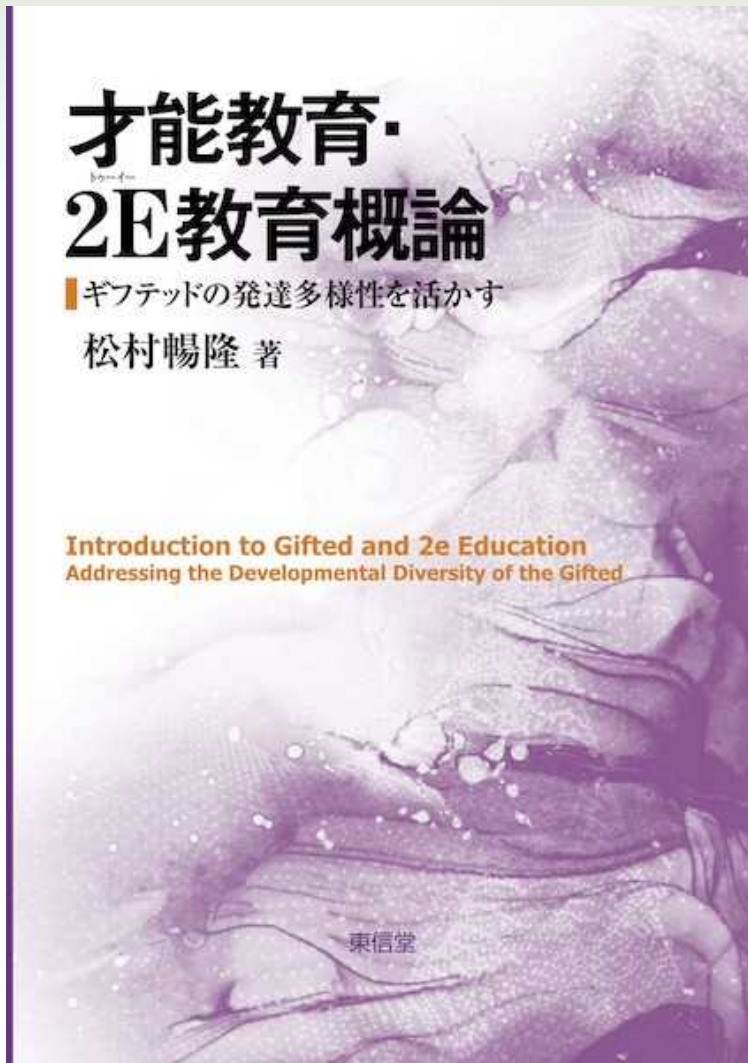
◆ GDF（不協和感のある才能児）

(the **g**ifted with **d**iscordant **f**eelings)

- 社会情緒的問題：OE(超活動性)が不適応に働く
過集中,完璧主義,学業不振,いじめ,不登校
- 2E(ASDやADHD)とは別。進学校等に多く存在
- * 教師・SCは才能(2E, GDF)児の困難に気づかない
 - 学びやすい、生きやすい環境を整える
当人・周囲の認識だけで有用な場合も
- * ①発達障害児の才能行動、
②才能児の社会情緒的問題の実情を知る
→教師の認識の調査を手がかりに

● 今後の才能教育の在処(ありか)

- 特別な指導・支援が必要・適当な才能児集団は発達障害児と同じ位の比率(全体の数%以上)の可能性
- しかし才能教育という新たな制度は社会的合意形成を得にくい
- 才能教育の位置づけを、特別支援教育や生徒指導の在り方とも関連させて検討する
(カナダでは統合的に特別ニーズ教育も)
- 学習・社会情緒的支援ニーズの高い才能(2E, GDF)児の(本人・周囲が)困っている状況を打開
→ 派生的効果：発達障害を発達多様性の一種と相対化できる
- 通常学級での個別最適な学び = 個性化教育(指導の個別化・学習の個性化)と連携



(2021.07.10刊行)

◆参考ウェブサイト

- 2E教育フォーラム (松村)

<http://2e-education.org/>